
全国専門学校情報教育協会

Institute for Vocational College, Information Technology Education

第14回定例総会 資料

平成22年6月9日 於：東京／五反田ゆうぼうと

- | | |
|-------|-------------------|
| 第1号議案 | 平成21年度 事業報告 |
| 第2号議案 | 平成21年度 収支決算報告 |
| 第3号議案 | 平成22年度 事業計画案 |
| 第4号議案 | 平成22年度 収支予算案 |
| 第5号議案 | 本会の一般社団法人への移行について |
| 第6号議案 | 役員改選の件 |

目 次

第1号議案 平成21年度事業報告.....	2
1. 総会.....	2
2. 理事会（常任理事会含む）.....	2
3. 委員会.....	2
(1) 財務委員会.....	2
(2) 調査委員会.....	3
(3) 研修委員会.....	3
(5) ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会.....	7
4. その他の事業.....	8
第2号議案 平成21年度 収支決算報告.....	9
第3号議案 平成22年度 事業計画案.....	13
1. 事業計画.....	13
(1) 調査研究事業（調査委員会）.....	13
(2) 研修事業（研修委員会）.....	14
(3) イベント事業.....	14
(4) 新規収益事業の検討.....	14
(5) 本会の法人化.....	14
2. 会議等.....	15
(1) 総会.....	15
(2) 理事会.....	15
(3) 常任理事会.....	15
(4) 常置委員会.....	15
(5) 特別委員会.....	15
第4号議案 平成22年度 収支予算案.....	16
第5号議案 本会の一般社団法人への移行について.....	17
第6号議案 役員改選の件.....	18

第1号議案 平成21年度事業報告

1. 総会

平成21年度定例総会(第13回)は6月16日に東京ガーデンパレスにて開催され、以下の事項について審議検討を行った。

第1号議案 平成20年度事業報告

第2号議案 平成20年度収支決算報告

第3号議案 平成21年度事業計画案

第4号議案 平成21年度収支予算案

2. 理事会(常任理事会含む)

平成21年度は、理事会2回、常任理事会2回を開催し、以下の件について審議した。

(1) 本会の法人化について

今後、本会が発展していくためには、行政や企業と本会の連携が必要不可欠な要件となってきている。そのためも本会を「みなし法人」から何らかの法人格を取得する必要があるという意見が多く提出された。

(2) 本会が行う収益事業等について

本会の経営的基盤を安定させるためには、会費収入のみならず、それ以外の事業収入が必要であると想定し特別委員会を設置して検討を行った。結果として具体的な事業企画には至らなかったものの収益事業の必要であるとの結果に至った。

(3) 本会の実施するイベント事業の運営について

現状は、ロボット競技会とビジネスプロデュースコンペティションの2種類のイベントを開催しているが、これらの大会の継続について検討するとともに本会会員校のうち多くの学校が取り組んでいる教育に対応する新規イベント立案が必要であるとの結果に至った。

3. 委員会

(1) 財務委員会

本会の予算編成並びに決算、財務管理等について検討を行った。また、旅費規程をはじめ今後必要とされる諸規程を検討した。以下は、主な検討課題。

- a. 予算編成並びに決算終了に関する事項
- b. 財務管理に関する事項
- c. 会計監査に関する事項
- d. その他財務に関する事項

(2) 調査委員会

平成21年度は、専門学校における企業交流・企業提携の調査を行った。

■専門学校における企業交流・企業連携に関する調査

目的：「教育内容の高度化は企業に認められる人材を専門学校が自信を持って供給できる機関となること」であると位置づけ、現状で各学校と企業がどのような交流を持ち、どのような教育提携をしているのかを調査した。

時期：2010年1月中旬～下旬

対象：会員校98校にDM発送

回収：34校（実数） ※延べ回答数は38件（一校で複数の分野にわたる場合）

回収率：35%

内訳：「工業」26校、「医療衛生」3校、「社会福祉」1校、「商業」2校、
「文化教養」2校

※具体的な内容は資料を添付する（資料①、資料②）。

(3) 研修委員会

研修委員会は、会員校の教育内容の充実、募集・広報活動の活性化等を図るための各種研修の立案と運営を行った。平成21年度は東京3回、大阪1回、仙台1回、合計5回の委員会を開催した。

■研修会開催状況（P.4参照）

a. 管理者研修

定例総会に合わせて、管理者を対象とした管理者研修を実施した。

b. 協会オリジナル教員研修

教員向け研修は5研修（運営系4、IT技術系1）を実施した。

c. 文部科学省委託事業と連携した研修

文部科学省委託事業と連携して5テーマの実証研修や説明会等の実施協力をした。

■専修学校フォーラムについて

本会会員および専修学校関係者を対象として、教育情報、経営情報、教育トレンドを提供することや、文部科学省の委託事業の発表の場として専修学校フォーラムを開催した。

日程：平成22年2月23日（火）～24日（水）

会場：中野サンプラザ

参加者：187名

後援：経済産業省

協力：財団法人専修学校教育振興会、全国専修学校各種学校総連合会
全国学校法人立専門学校協会

■平成21年度 実施研修一覧

(1) 情報協会オリジナル研修

① 管理者研修

A=運営系、B=IT技術系

No	日時	研修名	講師	会場	区分	分類	募集人数	参加人数	募集率	満足度
1	6/13	「こんな専門学校は必ず大学に負ける」	芦田 宏直	東京ガーデンパレス	A	管理職・募集・広報	40	40	100.0%	80.0%

② 教員向け研修

「大学全入時代の専門学校教育・募集を考える研修会」										
No	日時	研修名	講師	会場	区分	分類	募集人数	参加人数	募集率	満足度
2	7/27~28	第一部 「専門学校教育は、なぜ社会的な評価が低いのか？」	芦田 宏直	国際理容美容専門学校	A	学校運営・募集・広報	30	6	20.0%	83.3%
3	8/6~7	第二部 「専門学校の教育評価は、なぜいつも失敗しているの？」	芦田 宏直	国際理容美容専門学校	A	学校運営・募集・広報	30	6	20.0%	83.3%
4	8/24~25	第三部 「大学全入時代の専門学校募集はどうあるべきか」	芦田 宏直	新宿コズミックセンター	A	学校運営・募集・広報	30	7	23.3%	100.0%
5	12/25	『基本情報・ITパスポート ストラテジ分野集中セミナー』	大越 肇	日本工学院専門学校	B	IT技術	30	17	56.7%	70.6%
6	12/25~26	『内定率向上のための就職指導強化研修会』	鈴木 友之	日本工学院専門学校	A	学校運営・就職	30	11	36.7%	54.5%
教員向け研修計							150	47	31.3%	74.5%

③ 専修学校フォーラム

7	2/23~24	専修学校フォーラム2010	—	中野サンブラザ	総合	総合	160	187	116.9%	83.3%
---	---------	---------------	---	---------	----	----	-----	-----	--------	-------

情報協会オリジナル研修計

合計 350 274 78.3% 79.9%

* 協会オリジナル研修の満足度は受講者アンケート回答のうち『目的を達成した者』の比率。

(2) 文部科学省委託事業説明会および研修

No	日時	研修名	講師	会場	事業分類	募集人数	参加人数	募集率
1	1/20	IRT(項目反応理論)説明会	別府 正彦	全経会館	重点支援	30	20	66.7%
2	11/20	DSP技術教員研修会	清水 太郎 岸本 英一	品川イーストワンタワー会議室	重点支援	20	14	70.0%
3	1/29	看護師育成のためのコミュニケーション教材に関する説明会	鹿野 晴夫	専門学校穴吹医療カレッジ	重点支援	30	18	60.0%
4	2/5	「ドクター秘書」育成学科設置のための教育プログラム開発教員研修会	野田 雅司 柄沢 清 伊藤 典子	全経会館	重点支援	30	22	73.3%
5	2/5	教員向けメンタルトレーニング/脳力開発トレーニング研修会	内藤 貴雄 浦谷 裕樹 住友 大我	株式会社コロネット	重点支援	30	23	76.7%
委託事業研修計						140	97	69.3%

総合計

総合計						490	371	75.7%
-----	--	--	--	--	--	-----	-----	-------

(4) ロボット委員会

「第18回全国専門学校ロボット競技会」企画・運営を行った。なお、例年の文部科学大臣賞に加え、今大会の団体優勝には経済産業省から商務情報政策局長賞が交付された。

■第18回全国専門学校ロボット競技会

日 程：平成21年12月22日（火）、23日（水・祝）

会 場：大田区産業プラザ PiO 1階大展示ホール

主 催：全国専門学校情報教育協会／財団法人専修学校教育振興会

後 援：文部科学省／経済産業省

日本経済新聞社／テレビ東京／読売新聞東京本社

協 力：専門学校新聞社／学校法人東放学園

競 技：・自律型ロボット対戦競技（ソフトウェア部門）

・自律型ロボット対戦競技（ハードウェア部門）

・有線型ロボット対戦競技

・二足歩行ロボット競技

■参加校・参加部門・参加チーム数一覧（14校 63チーム）

エントリーNo.	学校名	ソフト	ハード	有線	二足	計
1	日本電子専門学校	-	-	-	3	3
2	日本工学院専門学校	3	-	-	1	4
3	日本工学院八王子専門学校	4	3	1	3	11
4	名古屋工学院専門学校	2	2	2	2	8
5	大阪工業技術専門学校	-	2	2	-	4
6	浜松情報専門学校	1	2	2	1	6
7	越生自動車大学校	2	2	-	-	4
8	エプソン情報科学専門学校		1	-	-	1
9	中日本航空専門学校	2	2	2	2	8
10	専門学校麻生工科自動車大学校	-	1		2	3
11	情報科学専門学校 新横浜校	1	1	1	1	4
12	横浜システム工学院専門学校	1	1		1	3
13	東京電子専門学校		1			1
14	原田学園ハイテク専門学校	-	2	1	-	3
		16	20	11	16	63

■協賛企業（五十音順） 9社

株式会社栄美通信	専門学校新聞社
株式会社オーム社	株式会社タレントデータバンク
広告社株式会社	株式会社ブレインズ・ネットワーク
株式会社JSコーポレーション	株式会社ボーンデジタル
株式会社 昭栄広報	

■協賛専門学校（五十音順） 5校

学校法人片柳学園	日本電子専門学校
東京電子専門学校	学校法人吉田学園
名古屋工学院専門学校	

■第18回全国専門学校ロボット競技会 結果一覧

順位	学校名	ロボット名	ロボット名ふりがな
自律型ロボット対戦競技 ソフトウェア部門			
優勝	日本工学院八王子専門学校	緋蜂	ひばち
準優勝	日本工学院八王子専門学校	麒麟	きりん
第3位	日本工学院八王子専門学校	ぼち	ぼち
第3位	越生自動車大学校	㊟号車	きゅうごうしゃ
自律型ロボット対戦競技 ハードウェア部門			
優勝	名古屋工学院専門学校	SUN四郎	さんしろう
準優勝	原田学園ハイテク専門学校	りむ	りむ
第3位	日本工学院八王子専門学校	轟天号	ごうてんごう
第3位	名古屋工学院専門学校	大左衛門	だいざえもん
有線型ロボット対戦競技			
優勝	中日本航空専門学校	キャッチ&リリース	キャッチアンドリリース
準優勝	浜松情報専門学校	ROOKIES	ルーキーズ
第3位	浜松情報専門学校	ACTSecond	アクトセカンド
第3位	中日本航空専門学校	ShoppingPP	ショッピングパパ
二足歩行ロボット競技			
優勝	麻生工科自動車大学校	ACE・τ	エース・タウ
準優勝	日本工学院八王子専門学校	オモニー	オモニー
第3位	日本工学院八王子専門学校	躍進feat. タマ	やくしんフィーチャリングたま
第4位	麻生工科自動車大学校	ASO鷹ver. 8	あそおうヴァージョンはち
優 秀 賞			
優秀ソフトウェア賞	浜松情報専門学校	浜情☆UP DATE	はまじょうアップデート
優秀ハードウェア賞	東京電子専門学校	思い出ボンチ	おもいでボンチ
優秀メカニック賞	大阪工業技術専門学校	OCT番号	オクトいちごう
優秀ヒューマノイド賞	横浜システム工学院専門学校	YSE-GUNDOM	ワイエスイーガンダム
ロボコム賞	日本電子専門学校	P ロム	ピーロム
団体優勝	麻生工科自動車大学校		

(5) ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会

「第6回 ビジネスプロデュースコンペティション (BPC大会)」の企画・運営を行った。詳細は以下の通り。

■第6回BPC大会開催実績

- ・ビジネスプラン募集期間 : 平成21年11月10日～平成21年12月10日
- ・一次審査(書類選考) : 平成21年12月16日(水)
- ・二次審査(BPC大会) : 平成22年1月22日(金)

※一次審査を通過したビジネスプランのプレゼンテーション

会場 日本電子専門学校 B1 メディアホール

- ・応募実績 : 12校 43プラン(昨年度実績 15校 58プラン)
- ・一次審査通過 : 9校 10プラン(昨年度実績 10校 10プラン)
- ・後援: 経済産業省(後援名義使用許可、経済産業政策局長賞交付)

■BPC参加校(12校)

麻生情報ビジネス専門学校	中国デザイン専門学校
上田安子服飾専門学校	東北電子専門学校
大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	名古屋工学院専門学校
国際デザイン・ビューティカレッジ	※新潟情報ビジネス専門学校
静岡産業技術専門学校	※ニホン国際ITカレッジ
総合電子専門学校	日本電子専門学校

「※」は今年度初参加校

■第6回ビジネスプロデュースコンペティション 結果一覧

順位	学校名	ビジネスプラン名
グランプリ 経済産業政策局長賞	麻生情報ビジネス専門学校	『★ヤングTOUCHツアー★』
準グランプリ	大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	『中小企業向けPRソリューションサービス』
アイデア賞	名古屋工学院専門学校	『家庭菜園で採れた食材を持込んでもらう和食レストラン』
マーケティング賞	総合電子専門学校	『高齢化社会に生きる高齢者の方々へ、新たな趣味と生きがいを提供する』
プレゼン賞	大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	『中小企業向けPRソリューションサービス』

4. その他の事業

(1) ホームページを利用した各種情報の提供

本会ホームページを利用した各種PR活動の提供は、研修会や委員会活動報告、会員校イベント情報をはじめ、賛助会員や各種教育関連団体などから寄せられた41件のトピックス（ニュース）を掲載した。

(2) インターネットメールによる各種情報の提供

本会会員校の教職員ならびに、教員研修会等参加者のうち情報配信を希望した方を対象に22件のメールニュースを発行した。掲載内容は、本会が行う研修会の募集情報などのほか、会員校、賛助会員から寄せられたイベントやキャンペーン情報等の配信を行った。

第2号議案 平成21年度 収支決算報告

平成21年度 収支計算書
(平成21年4月1日から平成22年3月31日まで)

(単位:円)

勘定科目	21年度予算額	21年度決算額	差異	備考
(収入の部)				
会費収入	(12,900,000)	(11,700,000)	(1,200,000)	
年度会費収入	10,200,000	9,500,000	700,000	
新規入会金収入	200,000	0	200,000	
賛助会費収入	2,500,000	2,200,000	300,000	
研修会参加費等収入	(4,840,000)	(1,552,000)	(3,288,000)	
研修会参加費等収入	4,840,000	1,552,000	3,288,000	
イベント開催協力金	(5,908,000)	(5,239,265)	(668,735)	
ロボット競技会開催費収入	5,908,000	5,239,265	668,735	
雑収入	(50,000)	(24,349)	(25,651)	
雑収入	50,000	24,349	25,651	
当期収入合計(A)	(23,698,000)	(18,515,614)	(5,182,386)	
前期繰越収支差額	(23,477,157)	(23,477,157)	(0)	
収入合計(B)	(47,175,157)	(41,992,771)	(5,182,386)	
(支出の部)				
会議費	(3,890,000)	(1,676,111)	(2,213,889)	
総会運営費	580,000	379,062	200,938	
役員会運営費	1,300,000	647,854	652,146	
委員会等運営費	1,810,000	449,195	1,360,805	
部会会費	200,000	200,000	0	
事業費	(4,900,000)	(2,168,687)	(2,731,313)	
研修会等事業費	3,500,000	1,748,691	1,751,309	
調査研究費	470,000	35,440	434,560	
広報活動費	630,000	279,556	350,444	
会員加入促進費	300,000	105,000	195,000	
イベント開催費	(7,298,000)	(5,258,770)	(2,039,230)	
ロボットコンテスト開催費	5,908,000	4,984,113	923,887	
ビジネスプロデュースコンハ®開催費	1,390,000	274,657	1,115,343	
事務委託費	(11,000,000)	(11,000,000)	(0)	
事務委託費	11,000,000	11,000,000	0	
雑費	(50,000)	(57,718)	(△ 7,718)	
雑費	50,000	57,718	△ 7,718	
予備費	(37,157)	(0)	(37,157)	
予備費	37,157	0	37,157	
当期支出合計(C)	27,175,157	20,161,286	7,013,871	
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,477,157	△ 1,645,672	△ 1,831,485	
次期繰越収支差額(B)-(C)	20,000,000	21,831,485	△ 1,831,485	

第18回 全国専門学校ロボット競技会会計報告書
(平成21年4月1日から平成22年3月31日)

(単位:円)

収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
競技会参加費	700,000	640,000	60,000	
協賛金	2,508,000	1,799,265	708,735	
開催協力金	2,700,000	2,800,000	△ 100,000	
収入合計	5,908,000	5,239,265	668,735	

支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
会場等設営費	2,197,500	1,786,418	411,082	
大会運営費	1,189,360	1,028,627	160,733	
印刷費	139,000	149,625	△ 10,625	
通信費	152,000	71,543	80,457	
商品費	169,500	194,396	△ 24,896	
大会記録費	20,000	0	20,000	
会議費	411,280	51,004	360,276	
人件費	360,500	442,500	△ 82,000	
事務局運営費	1,260,000	1,260,000	0	
雑費	8,860	0	8,860	
支出合計	5,908,000	4,984,113	923,887	
情報会計繰越金	0	255,152	△ 255,152	

平成21年度 財産目録

平成22年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
資産の部	
流動資産	
1. 現金預金	
現金 現金手許有高	257,857
普通預金 三菱東京UFJ銀行:東中野支店(0948013)	15,961,628
定期預金 三菱東京UFJ銀行:東中野支店(0948013)	5,000,000
2. 未収入金	612,000
資 産 合 計	21,831,485
正 味 財 産	21,831,485

監 査 報 告 書

全国専門学校情報教育協会

理事長 吉 田 松 雄 殿

私たちは、全国専門学校情報教育協会の平成21年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）における収支計算書、財産目録、諸証票書類ならびに同事業年度の理事の業務状況について監査を実施した。

その結果、財務諸表等は協会の収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認めた。

また、理事の業務執行状況も適正であると認めた。

平成22年5月26日

監 事 西 沢 正 樹 ⑩

監 事 菊 田 薫 ⑩

監 事 菅 原 一 博 ⑩

第3号議案 平成22年度 事業計画案

本会は、平成9年4月1日に財団法人専修学校教育振興会から独立してから13年が経過した。情報処理科に在籍する専修学校学生数は、平成4年度の9万8000人と比較して、平成21年度は2万8000人となり、学生数は約7割も減少してしまった。また、本協会もピーク時には、260校を越える会員数があったが、現状では100校を下回る会員数となり、学生数の減少と同等の約7割の学校が本会を去ってしまった。

I T業界の世界的な流れは、Google の快進撃やスマートフォンの台頭等に見られるように、I T技術・インターネットを利用したビジネスや映画・映像等を筆頭としたコンテンツ産業が急速に進化し、その速度を速めながら進化し続けている。

国は、I T業界やコンテンツ業界を成長産業として位置づけ、産学連携による人材育成や若年層からのI T教育の導入など様々な施策が実施されている。

しかしながら、現状は「人は必要とされているが学ぶ学生がいない」というねじれ現象が生じている状態である。

そこで本会は、以下の目的を再認識し、協会として行うべき事業の目標を明確にし、活動を行うこととする。

- (1) 成長産業たるべきI T業界並びにコンテンツ業界の発展に寄与するために、専門学校が育成するべき人材を明らかにするとともにその達成を目指す。
- (2) I Tを活用した教育の実施例等を会員に提供し、会員が行う教育効率を高める。
- (3) 本会が行う事業を通じて、会員が発展する。

1. 事業計画

(1) 調査研究事業（調査委員会）

- ① I T業界およびコンテンツ業界で必要としている人材を明確にし、その中から、専門学校が教育するべき人材像を特定し会員にその情報を提供する。
- ② e-learning に代表される教育の電子化やネットワーク化の動向を調査し、会員に情報を提供する。
- ③ 教育に必要とされるソフトウェア・ハードウェア・その他周辺機器を、性能や利活用の状況、コスト面から評価し、会員に情報を提供する。
- ④ その他、本会が必要とする調査を行う。
- ⑤ 調査経過は報告書として取りまとめ、会員に報告する。

(2) 研修事業（研修委員会）

- ① I Tおよびコンテンツを教育する教員として、一定レベルの教育の質を担保するための教員研修を設計し理事長に答申する。
- ②会員の研修ニーズをもとに研修を設計し、会員に提供する。
- ③文部科学省委託事業の発表の場として昨年度まで実施していた「専修学校フォーラム」の目的や運営方法について再検討し、今年度も実施する。

(3) イベント事業

- ①第 19 回全国専門学校ロボット競技会を実施する。また、会員の同大会関連学科の設置状況、学生数の推移、大会の必要性等について検討し、今後の運営の方針を再検討する。（ロボット委員会）
- ②第7回ビジネスプロデュースコンペティションを実施する。また、本会の目的との整合性や大会の参加状況等を再検討し、改廃等も含めた検討を行う。（ビジネスプロデュースコンペティション運営委員会）
- ③会員が必要としているイベント等の調査を行い、新たなイベントの必要性等について取りまとめ理事長に答申する。なお、調査等を行うためにイベント事業に関する特別委員会を設置する。

(4) 新規収益事業の検討

会員の会費負担の軽減および協会活動を活発化させるためには、経営基盤の強化を図る必要がある。そこで本会は、今年度から新たに収入源となるべき新規収益事業を検討することとする。検討は特別委員会を設置して行い、結果を平成 22 年度中に取りまとめて理事長に答申する。また、具体的な検討事項として以下のことを検討する。

- ①リスクマネジメント検定試験の実施
- ②認定・評価事業の実施（学校認定、教員認定）
- ③教材販売事業
- ④設備・備品等の共同購入事業
- ⑤その他目的を達成するために必要な事業

(5) 本会の法人化

本会の目的達成および事業を円滑に行うために、本会の法人化を図ることとする。法人区分は、一般社団法人とし平成 22 年度中の設立を目指す。なお、具体的な手続き等については、財務委員会が担当し円滑にこれを行う。

2. 会議等

(1) 総会

本会運営にかかわる重要事項を決定・承認するために6月に定例総会を行う。

また、一般社団法人設立等の重要案件を決定するための臨時総会を平成22年度内に行うことを予定する。

(2) 理事会

理事会は、本会の執行機関であり本年度から3回程度開催する。

(3) 常任理事会

常任理事会は、正副理事長、専務理事、委員会を担当する理事で組織し、事業の進捗等の連絡・調整を密に図るために本年度から5回程度実施する。

(4) 常置委員会

本会が行う事業の具体的な検討は委員会が行う。なお、今年度から委員会委員は3～5名程度の委員をもって構成する。

(5) 特別委員会

本年度は、収益事業を検討するための特別委員会を設置することにしたい。特別委員会は、3～5名程度の委員で構成し、本会の新規収益事業について検討する。

第4号議案 平成22年度 収支予算案

平成22年度 収支予算案
(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:円)

勘定科目	22年度予算案	21年度予算額	増減額	備考
(収入の部)				
会費収入	(11,350,000)	(12,900,000)	(△ 1,550,000)	
年度会費収入	9,300,000	10,200,000	△ 900,000	
新規入会金収入	50,000	200,000	△ 150,000	
賛助会費収入	2,000,000	2,500,000	△ 500,000	
研修会参加費等収入	(2,140,000)	(4,840,000)	(△ 2,700,000)	
研修会参加費等収入	2,140,000	4,840,000	△ 2,700,000	
イベント開催協力金	(5,100,000)	(5,908,000)	(△ 808,000)	
ロボット競技会開催費収入	5,000,000	5,908,000	△ 908,000	
ビジネスプロフェッショナルコンペ開催費収入	100,000	0	100,000	
雑収入	(40,000)	(50,000)	(△ 10,000)	
雑収入	40,000	50,000	△ 10,000	
当期収入合計(A)	(18,630,000)	(23,698,000)	(△ 5,068,000)	
前期繰越収支差額	(21,831,485)	(23,477,157)	(△ 1,645,672)	
収入合計(B)	(40,461,485)	(47,175,157)	(△ 6,713,672)	
(支出の部)				
会議費	(3,330,000)	(3,890,000)	(△ 560,000)	
総会運営費	650,000	580,000	70,000	
役員会運営費	1,500,000	1,300,000	200,000	
委員会等運営費	980,000	1,810,000	△ 830,000	
部会費	200,000	200,000	0	
事業費	(2,480,000)	(4,900,000)	(△ 2,420,000)	
研修会等事業費	1,600,000	3,500,000	△ 1,900,000	
調査研究費	300,000	470,000	△ 170,000	
広報活動費	280,000	630,000	△ 350,000	
会員加入促進費	300,000	300,000	0	
イベント開催費	(5,100,000)	(7,298,000)	(△ 2,198,000)	
ロボットコンテスト開催費	4,900,000	5,908,000	△ 1,008,000	
ビジネスプロフェッショナルコンペ開催費	200,000	1,390,000	△ 1,190,000	
事務委託費	(10,000,000)	(11,000,000)	(△ 1,000,000)	
事務委託費	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000	
組織改革費	(500,000)	(0)	(500,000)	
組織改革費	500,000	0	500,000	
雑費	(50,000)	(50,000)	(0)	
雑費	50,000	50,000	0	
予備費	(201,485)	(37,157)	(164,328)	
予備費	201,485	37,157	164,328	
当期支出合計(C)	21,661,485	27,175,157	△ 5,513,672	
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,031,485	△ 3,477,157	445,672	
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,800,000	20,000,000	△ 1,200,000	

第5号議案 本会の一般社団法人への移行について

本会の目的達成および事業を円滑に行うために、本会の法人化を図ることとする。法人区分は、一般社団法人とし平成22年度中の設立を目指す。なお、具体的な手続き等については、財務委員会が担当し円滑にこれを行う。

第6号議案 役員改選の件

本会会則第17号第1項に基づき任期満了による本会役員改選を行う。なお改選は、会則第16条各項の定めにより行うこととする（資料③ 平成20・21年度役員名簿）。